（六日夕刊）
磐城新聞
休刊日　大祭第一第三日曜日
定價　壹ヶ月　五十錢　壹枚　二錢
廣告料　一行　五十錢（雜報欄場所指定二十錢増）
發行兼編輯印刷人　蓮沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所　磐城新聞社　電話五六番

ソビエツトロシヤの勞働法典と産業の現狀（一）

大日本森林組合代表大倉組參事　梅浦健吉

序

ソビエツトロシアの近狀に就ては比較的世に紹介されておらない。從て稍ともすれば誤解され曲解され勝である。甚しきは勞働者の樂天地であり共産主義者の理想境であるかの如く誤傳されておる。之は從來同國への入國が比較的困難であつたのと、通信の檢閲が嚴重なため國內の眞相々傳へる機會、方法が尠かつたといふことに原因してゐると思はれるのであります。私は森林利權交涉のため大正十五年の二月初旬から本年の四月中旬迄、一ケ年餘に亘つて同國の首都モスコーに滯留し、其間利權との關係上特に視察調査の便宜を供與されたのでモスコーを中心に國內各地方の現狀を親しく目睹するの機會を得た。又種々の統計書及調査書を入手することを得たので同國の眞相の幾分を掴み得たかの感がしました。殊に同國の勞働法典と其實施の狀態に就ては主要都市に於ける各工場を視察して其實相に觸るることが出來ました。而して其結果は我國で想像するが如き勞働者の樂天地でもなければ共産主義者の理想境でもない、寧ろ其反對の狀態にあることを知つたのであります。晩近勞働問題に關する論議喧しき折柄勞働者及一部思想家の提唱主張する如き理想を多分に包含網羅しておるソビエツトロシヤの勞働法典と其實施狀態とを紹介することは勞働問題[illegible]の一小資料たり得るかとも思はれましたので敢て其梗概を書き綴つたのであります。本務の餘暇[illegible]査研究であり[illegible]不完全の譏[illegible]んが幸に御電覽を得ば本懷至極であります。

昭和二年孟夏

緒言

千九百十七年二月及十月の革命並に引續く內亂によつて殺傷された露國民の數は無慮六百萬人、革命後の恐怖政治の犧牲となつて銃殺された者は百七十萬人と稱せられてゐる。尙之れに革命の餘波とも謂ふべき千九百十九年から同二十一年に亘る大饑饉による死者を合すれば其數實に一千五百萬人に達するのである。此有史以來の大慘虐を演出した大革命によつて獲たものは何であるか、試に斯く露國民に問へば彼等の大多數は言下に答へるであろう、我勞働法典こそ其唯一の獲物であると、蓋し此答辯は必ずしも勞働法典の重要價値を賞讃する意味のみと解すべきでない。斯る大犧牲を拂つて獲たる唯一のものは價値なき一勞働法典あるのみ、と、獲る所尠くして革命の犧牲の徒らに多大であつたことを嗟嘆する聲とも解すべきで答辯者の立場によつて同一の答辯が全然正反對の意義となるのである。然し其何れにするも革命の價値を論ずる對照物として眞先に擧げらるるものは勞働法典である。同法典は勞農政府として最も心血を傾倒した特色ある法典であり或意味に於てソビエツトロシアの精粹を代表するものとして又憲法に準ずる重要法典として特別に尊重されつつあることは極めて明白な事實である。茲に私は勞働法典制定の因由に就て一言しなければならぬ。千九百十七年に於ける革命の大業は勞働者を中堅とする無產階級者の手によつて成就されたものである。

◆

磐新顧問

（照合を觀迎す）

（問）二十六歲の小生の妻一昨年男子が生れたが四月目に死亡しました。其後姙娠しません妻はよく肥へて体重十五貫五百匁あります然し月經は正調です。肥へると姙娠しないのでせうか（唯夫）

（答）脂肪と卵巢の機能障害とは關係ありますが、その位の體で而も月經が正しくある方なら御心配ありません。必ず姙娠します。

（問）二歲の男兒、母乳が思ふやうに出ない爲め近所の人妻から貰ひ乳して居ます、其人の夫に梅毒があることが最近判りましたが子供に傳染しますか（みね子）

（答）乳をのませる婦人に梅毒があれば、その乳を呑む小兒にはそれが傳染する危險は充分あります貴女の場合は授乳婦の夫に梅毒があると云はれますが、多くの場合妻は夫の梅毒に感染して居ます外見上變化がなくとも其血液は既に梅毒の原因たるスピロヘータ、プリダと言ふ波狀菌が潜んで居ます。貰ひ乳を他の人に變へた方が勿論です。

明日の吉凶

新歴七月七日　舊歴六月九日

▲一白　分に叶ひたることは大吉の日開店起業皆吉▲二黑　運氣強大にして諸願成就すべし入學就職吉▲三碧　多くの難事入り込み來りて內に助け少き日▲四綠　行詰まり勝ちの日別に進路を求むべし飲食注意▲五黃　自ら責むる事强ければ衆望集まりて榮達を見る▲六白　朋輩の助けありて存外の光榮・浴する吉日▲七赤　幸福の人よりも不運の人を見て自省すべし▲八白　催せし陽氣が次第に增進し吉福を招き入る日▲九紫　心焦立ち衝突を生じ易き日新しき事は特に凶

講談　血を洗ふ　(80)

高橋掬太郞創作
布施や八郞揮畫

妻に打ち明く

早間重太夫と吉村玄蕃が立ち歸へるのを左內は玄關まで見送つた。そして妻に外まで見送らせた。

「引ッ返して來る樣子はなかつたか？」

と左內は妻に問ふた

「いゝえ、ずつとお歸りのやうでございました」

と妻は答へた。

「さうか、ああ、苦しい目に遭つた。健康の者が病人の眞似をするのゝ骨の折れるものぢや」

と左內は居間へ戾つて大きく背伸びを一つした。

「して、何故にまた、そのやうに大怪我をしたやうな僞の眞似をされたのでございまするか？」

と、妻は怪訝さうに問ふた。

「うむ。これか、これには深い仔細があるのぢや」

と左內は考へるやうにしながらやがて

「さうぢや、今日まで連れ添ふ其方にも秘密にしてゐたことがあるが、今日は改めて語つて聞かさう」

と、左內は居間の丸窓の障子を明けて、外に立ち聞く者のないのを見定めてから妻に向つて膝突き合せた

「まあ。妾に秘密とは、どのやうなことでございませう」

と妻は不安を感じながら問ふた。

「うむ、それに先づ問はねばならぬことがあるが其方は君恩の有難さを知つてゐるやうな」

と、左內は改つたやうに問ふた。

「まあ、何んと仰せられます。どこに君恩の有難さを知らぬ者がありませう。一天萬乘の大君の御恩は別としまして、町人や百姓なら親の恩を第一としまするが武士の家には主君の御恩が第一に大事なものでございまする。或る場合には親兄弟に背くとも主君に盡すのが武士の本分でございまする、妾も武士の妻、君恩の有難さをどう忘れてなりませう」

と、妻は其のやうな事を問はれただけでも心外らしく、斯うきつぱり云つた。

「若し、お家に反逆を企てる者があつたら如何に致す」

「申すまでもありませぬ」

「然らば改つて打ち明け聞かすが實は今や主君に逆きて家を橫領せんとしてゐる者があるのぢや」

「ねッ……」

妻は思はず卒倒せんばかりに驚いた。

「その反逆の首謀が早間重太夫と昌康君なのぢや。そして、主君がお行方不明になつたといふのもみな其の陰謀の一つなのぢや」

と、左內は自分も仲間であつた事、坂上傳九郞が主君を討つた筈であること、秀吉に通じ信長の旗下に屬して當城はやがて昌康の所有に爲る筈の事、そして、昨夜は殘る一人の邪魔者たる神部清左工門を暗殺にしやうとして失敗した事、自分が悔悟した事などを詳しく語つた。

「左樣でございましたか。よく改心下さりました。惡事は決して世に榮ねるものではありませぬ、あなたが御改心遊さねば末代まで主に逆いた惡名を殘すのでございました」

と、左內の妻はなかなかしつかりした女で淚を流して夫の改心を喜んで呉れた左內も心に或る明るさを感じながら

「で、拙者は此事を神部殿にた打明け致さうと思ふのだが如何であらう？」

と妻に相談した

「ほんに、それがようございませう」

と妻は言下に同意した。

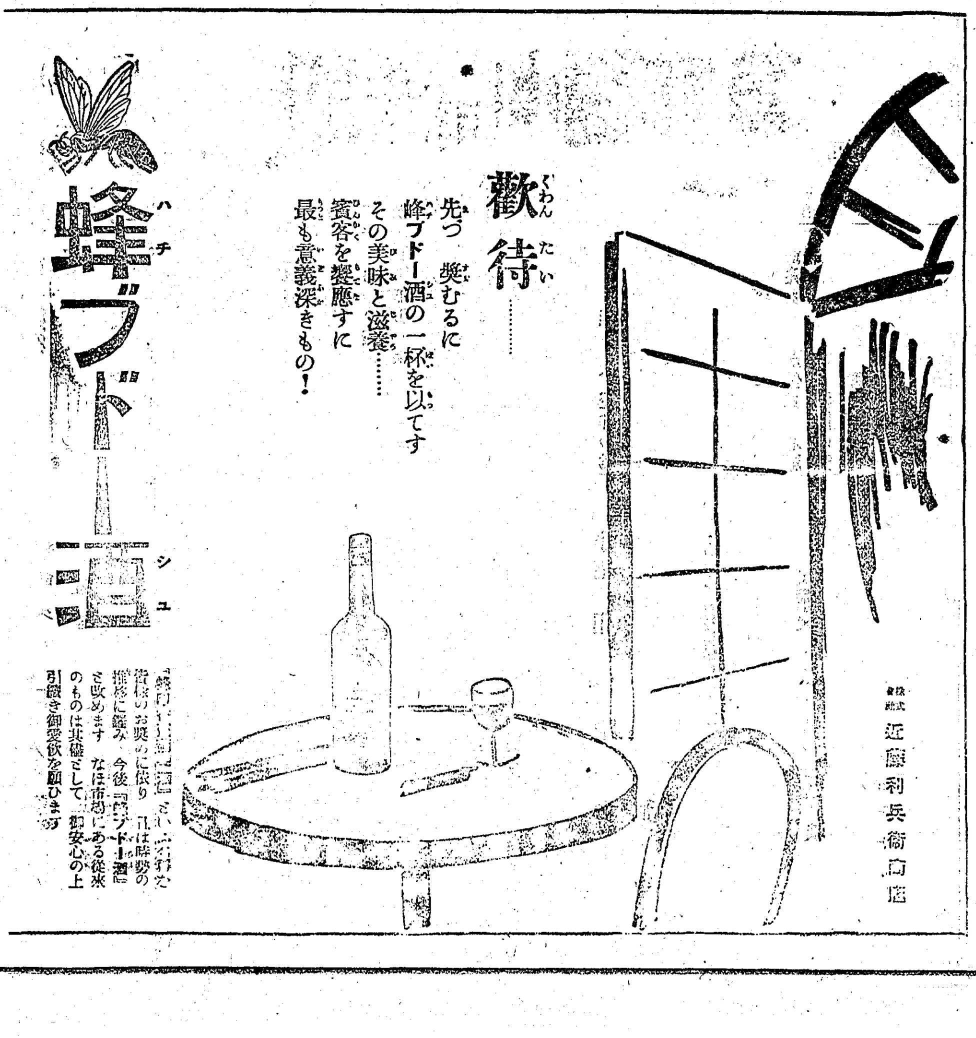
「成程、流石に寶道左內の妻だけある、感心ぢや」

と左內は感嘆したが、ふと昨日までの自分の心を思ひ浮かべて慚愧に耐へなかつた。が、今日は悔悟して正しき道に歩む自分であることに氣强さを感じながら更に問ふた。

仙臺高等工業學校長試驗證明
鐵道省指定
福島[illegible]
[illegible]
萬年屋

內科。外科。婦人科。
小兒科。花柳病科。
磐城病院
平町田町本通り
入院隨時
（電話一一四番）

營業品目
絹糸、絹紡績
綿糸、染糸、組紐
漁網糸、人造絹糸
カタン糸、輸出用加工糸
眞綿、其他糸物一式
東京市日本橋區通油町
株式會社　藤掛商店
電話浪花三五一番
振替東京三四〇番
糸界の羅針盤糸紐通報御一報次第直送
小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方
磐城新聞社御出で下さい。委細面談



蜂ブドー酒

歡待……
先づ奬むるに
蜂ブドー酒の一杯を以てす
その美味と滋養……
賓客を饗應すに
最も意義深きもの！

「蜂印香竄葡萄酒」と云ふ名稱も皆樣のお奬めに依り且は時勢の推移に鑑み今後「蜂ブドー酒」と改めます　なほ市場にある從來のものは其儘として御安心の上引續き御愛飲を願ひます

株式會社　近藤利兵衞商店

株　諸株式の賣買に應じます　式
謹告
株式現物賣買
平町田町六八
駒場四郎商店
電話四六五番
電略（カネ）又ハ（一）
取引は迅速を第一とします
取扱は親切を旨とします
（電話高價に買入たし）
賣　土地賣買金融の中介をします　買

のんですぐきく
クノー散
神經痛、頭痛、ロイマチス、齒痛、肩のコリ、其他疼痛時服用すれば奏効的確なり
論より證據直ちに試みられよ
定價　二十錢、三十錢、五十錢、一圓
平町各藥店ニテ特約販賣致します

情交を求めて拒絶され
茲に一家鏖殺を決意す

先づひさと五平に一撃に加へ
續いて二兒と實姉を即死せしむ

白水五人殺し豫審終結

石城郡內郷村大字白水鈴木治八郎（四九）に係る一家五人鏖殺被告事件は其の後平支部遠藤豫審判事の手に於て審理中愈々終結し近く公判に附せらる事となつたが豫審決定書に現はれた事實左の如し

豫審終結決定書

福島縣石城郡內郷村大字白水字廐畑九九農業
鈴木治八郎
明治十二年九月九日生

右の者に對する殺人被告事件に付豫審を遂げ決定する事左の如し

主文

本件を福島地方裁判所平支部の公判に付す

理由

被告人は福島縣石城郡內郷村大字白水字長槻大越治七の實弟にして大正十五年十一月中より治七と同番地內の本宅に居住する同人長男大越五平の妻ひさと情を通じ居りたるが昭和二年二月中旬五平方に於て同人の不在に乘じ情交を求めて拒絶せられたるにより其の無情を憤り若し五平が此の事を知る曉きには離問題を惹起すべき事を憂慮したる折柄同年三月二十三日夜同村大字白水字入山九十番地居住若松喜藤太方にて飲酒し午後八時過頃同家を立ち出て歸宅の途上前示の關係を想起し寧ろ五平夫妻を殺害して後難を除かんと企て其道路端の同所九十一番地石工高橋佐一方軒下に在りたる斧（證第一號）を持出し家人の就寐を窺ひて同夜午後十一時過ぎ頃同家風呂場窓の坂を開きて忍び入り五平夫婦及その子の伏床せる納戶に到り所持せる斧を揮つてひさ及び五平の頭部面部に數撃を加へ次で其の發覺を虞り且つ與舊の餘黨族一同を鏖殺せんことを決意し右斧を以て五平の次男融（當二才）長男良平（當九才）並に隣室に伏床中の被告人實姉大越りつの頭部を強打し以てりつ融を即死せしめ他の三名には瀕死の重傷を負はしめひさは同月二十五日、良平は同月二十六日、五平は同月三十日死亡するに至らしめ殺害の目的を遂げたるものなり

右所爲は刑法第百二十條第百九十九條第五十五條第五十四條第一項第一條を適用處断すべき犯罪にして其の嫌疑十分なりと思料するを以て刑事訴訟法第三百十二條に則り主文の如く決定す

昭和二年七月二日
福島地方裁判所平支部
豫審判事　遠藤周藏
裁判所書記　島山辰雄

趣旨の不徹底から
賃貸委員候補難

各町村共そろ〳〵

選擧準備に移る

石城郡下（平稅務署管內）の土地賃貸價格査委員の選擧はいよ〳〵本月二十五日一せいに執行さるゝことになつたので、時日切迫と共に早くも委員**顔觸れの**下馬評で各町村共、政爭化した選擧氣分を漲溢せしめてゐる、目下各方部々々の推薦狀況を見るに未だ調查委員の何者なるかと云ふに一般有權者に廣く徹底してゐないものらしくこれがため多少各町村で同選擧を理解してゐると見られるのは各町村吏員や町村會議員の半數位、それに直接關係ある地主連が多少わきまへてゐると云ふ狀態にあるがその結果、現在候補者として**下馬評に**あがつてゐるものは、これらの町村の事情を知り得るものと云ふのが眼目なる關係上、各町村長乃助役乃至町村會議員の一部どころが多い、而して地主側には未だ候補者として話題に上つてるものは一人もなく何れも遲延的立場にあるが、こうした結果果して選擧された委員は理想通りの人物のみをあつめるや否やは甚だ疑問とされる處で、もう少し新人的立場にある**農村地主**の錚々たる處から候補者をならびたいものと稅務當局側は頭痛を病んでゐる

一躍倍を突破した
小名濱の漁獲高

水產工業會社が出來て

將來の望み甚大

石城郡小名濱町の漁獲高は年額僅々二十七萬圓に過ぎなかつたが、昨年春政府より獎勵補助金二萬五千餘圓を交付さるゝ磐城水產工業株式會社の出現に依つて一大革新を來し昨年七月より本年五月迄の六ケ月間の總水あげ高實に四十三萬二千六百四十三圓に激増し六月中の如きは一ケ月だけでも十萬圓を突破した盛況である、同地方漁業家は數年來漸次遠洋漁業に移つて來た關係上船舶に仕込みに資金の欠乏を來し沖に**大魚群横行**するをみても前記の事情でみす〳〵見逃すのやむない狀態で從つて漁獲高も年年減少しつゝあつた矢先なのでこの特殊會社の設立は多數漁業家をして更生の思ひあらしめたわけで、同會社昨今の擧業について支配人福尾伊太郞氏は語る「當會社の主力を注いでゐる群魚部は水揚げと同時に代金の即時拂を斷行してゐるので、茨城**宮城方面**の廻船が續々入り昨年七月會社開業以來、六ケ月間に代金の支拂が千萬圓以上に達した。又船主に對しては資金の融通もし、製造部は大規模で如何なる大漁があつても差支ない準備が整ひ、冷凍部は本月から十月頃まで大活動をつゞけ、又八月下旬からは捕鯨會社工場に着手するが、同會社とは特約があるので種々の**製造も試**みることになつてゐるから漸次好成績を納み得らるゝと共に將來は東海岸有數の漁業地となることを確信してゐる」

好間村猪ノ鼻地內に
復た地辷りの前兆

箕輪村境界地一帶の亀裂

居住民等戰々恐々

去る大正十年十月三日突如本郡箕輪村大字大利字表山地內に地辷りの一大椿事突發し同地遠藤延男一同隼之助、片寄金吉、遠藤寅千代鈴木信次郎の五戶は見るも無慘に倒壞し地面は陷沒龜裂し目も當てられざりし慘狀は想起するだに今なほ**慄然たる**ものありその後同地は何等變動なく地辷りの個所は開こん植林その他適當の方法によつて耕され漸く忘れられんとする昨今に至り先に陷沒せる個所より東方好間村上好間猪ノ鼻一帶の地下に於て屢々異様の地鳴りを發し居住民等は不安に襲はれてゐたが一昨以來の降雨で地面に重みを來した爲めか好間村と**箕輪村の**境界地點たる井田本地內に部分的に地辷りの個所生じ縣道や、と三坂街道附近に當つて連續せる龜裂の個所を發見し爲めに居住民は彼の地辷りの慘禍を想像して戰々恐々たるものがあると

平豊間々を

自動車運轉

地方民大喜び

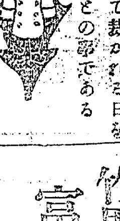
平、豊間間自動車の運轉は鈴木辰三郎、野崎滿藏兩氏の競願となつたがその後妥協成り共同で經營する事となり準備中のところいよ〳〵本月下旬から三十分每に運轉する事となつたので交通不便の同地方は夏季海水浴を控へて運轉開始は地方民から非常に喜ばれてゐる

一切を覺悟して
深き悔悟の生活

神妙に獄則を守つて

獄中の治八郎

然かも五人の子の父として妻と養母を擁し豆に稼いでゐれば村でも中流以上の樂な世間を送れる四十九才の分別男が生れ實家の甥嫁と通じ遂ひに恐るべき一家五人殺しの大罪を犯して今は囹圄の身となつてゐる鈴木治八郎は平刑務所未決獨房に收容されて以來八十餘日所謂春雨秋風深き懺悔の生活に這入つてゐる、收容されてから豫審廷に引き出さるゝ事前後七回に及び其の都度深編笠に捕繩の彼れは監守にせき立てられ乍ら貪ぼるが如く沙婆の風物に接する以外は全く暫らくは何人との面接さいも應ぜされ、その間彼れは悔悟の念やる方なく或る時は喪心せる如く深き沈默に入り、何事かを口走り乍ら恐ろしき罪に吾乍ら藻搔いてゐた一週一度の教誨僧師からの說教と刑務所より借りた佛教書を讀み耽つては既に感念のまなこを閉じては一さいを覺悟せるものゝ如くでさいあつたと言はれ神妙に獄則を守つて裁かれる日を待つてゐるとの事である



仲裁人を

二人で亂打

平署取調中

內郷村大字白水磐城炭礦會坂飯場坑夫信夫仁作（三三）同加瀨吉五郎（三三）の兩名は四日午後九時頃同村綴小林忠作方で飲酒中之れも同家で飲食中の磐炭坑夫曾根助治（三九）を些細の事から口論の末大立廻りとなり助治は仁作、吉五郎のために毆打され其の場に昏倒したので同家に居合せて見兼ねた吉田勝太郎が仲裁に入つた處仁作、吉五郎の兩人は仲裁今度は仲裁人勝太郎を毆り付け全身に打撲傷を負せて引上げたが毆打された助治、勝五郎の兩人は五日平署に仁助吉五郎兩名を相手に傷害の告訴し目下平署に於いて嚴重な取調を受けてゐる

濱三郡木炭

出荷大激減

農繁の關係か

濱三郡木炭同業組合の六月中に於ける檢查俵數は石城郡四萬二千五百三十一俵双葉郡五萬四千二百十俵相馬郡一萬四千七百七十四俵計十一萬一千五百十四俵で中大俵三千二百五俵小俵一萬八千三百九俵であるが此れを前五月の檢查俵數に比較すれで四萬二千六百三十俵の大激減であるが此れは田植其の他の農繁期のため出廻不足の結果で今七月は持越しと共に十五萬俵突破を見るものと豫想されてゐる

豊間の漁民

紛擾

漁港修築で

石城郡豊間村漁業組合は大敷網の漁獲高の二分を納付させその積み立金は二萬圓近くに達したので遠藤組合長はこの組合の基本金を以て漁港修築費にあて、縣費の補助を仰げば立派な豊間漁港が出來あがるのでこれを計劃してゐたが小舟業者は築港をするよりも、基本金を組合員に分配しろと主張し組合役員改選の結果この分配側が勝利を得遠藤氏は理事を落選したが同村將來の事を思ひば漁港修築が有望なので大船主は築港を希望し小舟業者は總撫し築港計劃を進めてゐる

不景氣の裏を行き
郵便貯金激増

各種事務も増加して

平局俄かに多忙

平郵便局に於ける去月中の各種事務概況を見れば

▽通常郵便物引受一八七六二二配達二二三、七一四で前月に比せば引受は四、四七四通の激減配達は二八、七一四の大增加で

▽書留引受四、六一一配達五、四九四△小包引受二、〇九九配達四、七〇〇

▽電信發信三、二七六着信四、〇二一△電話市外へ發信九、九〇〇着信一四、四〇〇市內總呼數五四一、四一〇で前月に比し大差なく

▽爲替は口數に於いて前月より八十六口の減でありながら金額に於いては七千六百四十九圓餘の大激増を示し

▽貯金の受入口數は五千六百六十六口で金額は六萬四千九百四圓十二錢で二萬五千圓拂出しは一萬餘圓の大激增である

以上の如く各種事務は増加するばかりで殊に貯金の拂戻し一萬圓に對し預入れが一萬五千圓の增加を見せてゐるのは不景氣續きで地方に貯金思想が普及されてゐる好例證であらう

鈴木四段受賞

平署武道の誇り

去る五月六、七、八日の三日間京都大日本武德殿の第三十一回武德祭當日本縣選出の平署巡查部長鈴木忠正氏（四段）は四段戰に全國各地の猛者を斃つて優勝した事は既報の如くであるが今般大日本武德會總裁久邇宮邦彥王殿下並に同會々長本郷房太郎氏から精錬狀を授與された

竹馬に跨がつて

富士登山の壯擧

來る廿九日出發を前に

平機關庫登山隊

平機關庫の登山隊は來る廿九日富士登山を決行すべく目下各種の準備を進めてゐるが同隊員の花澤輝一（三一）君は登山界に一新記錄を劃すべく竹馬に依つて富岳を踏破すべく計畫中で此れが實現されて見事成功した曉は世界的の大記錄ともなるべき空前の大壯擧で各方面から非常な注視をうけてゐる

石城牛乳の

衛生組合

近く創立發會

中央に不正牛乳事件勃發後地方に於ける一般牛乳需用家の間に牛乳の需用について警戒的な眼を見る樣になつて來たので石城郡內郞ち平、植田、四倉三警察署管內の牛乳搾取販賣業者十四名は土屋技手の奔走を預かつて力はあつたが組合を組織する事になりこの程石城牛乳衛生組合の創立發會式を擧げた顧問に三署長を推し會長には平町の岡田牛乳舍主が就任したが同組合の目的は畜牛の飼育改善、乳質の改良等で一般需用家の持つ牛乳に對する不安を一掃する計畫であると

八日會例會

藤田校で開會

平町田町青年の八日會第二回例會は明後八日午後七時より藤田裁縫女學校に於て開催磐城佑賢學舍長大和田豊吉氏の「青年奮起の秋は來れり」千葉平區裁判所監督判事の「所感」なる講演ある筈で男女來場を歡迎すると

時言

白水事件の豫審終結し戰慄すべき犯行やうやく白日下に晒さる、犯罪の動機を想ふ時、吾人は死せる五平の妻女のツラが今更に憎い

□

今度は猪ノ鼻に地辷りの前兆あり、居住民の心膽を寒からしむ、磐陽の天地何ぞ呪ひの斷へざりき哉よ

□

郡下各町村賃貸委員候補難の報あり、素より氣の利いた人間が出られ相もあるまい、どうせ選擧は政黨屋の戯れ事だ

□

竹馬に乘つて富岳を踏破する其の壯擧や嘉すべしと雖ども、徒らに好奇の譏りに終りなさんな

平館隣り
御料理
鰻蒲燒
仕出し
魚榮
電話四二四番

七月七日ヨリ
平館
說明　石井孝　谷洋　佐藤天隆　小林完　南挑華

探偵小說
足にさはつた女　全七卷
梅村蓉子。岡田時彥…主演
島耕二・谷幹一・瀧花久子・津村精一

侠骨篇
大前田英五郞　全七卷
大河內傳次郞。川上彌生主演
監督高橋壽康・助演尾上松葉・中村仙之助

西南戰爭余聞
事實新譯　悲戀劍史
心中ケオカ　全十卷
サンデー毎日所載　日活白眉篇
◇桂武男　◇多見太郎　◇市川市丸
澤村春子　中村仙之助　古城正弘　共演

外科
赤心堂病院
外科、耳鼻咽喉科
內科、泌尿器科
X光線科
平町字田町
電話四七五

新館陳列　六月一日より
◇昭和式中形
◇昭和式手拭中形
◇名古屋しぼり
是非御覽を願ひます
三井吳服店
平町三丁目
電話三十八番
夏物豊富取揃へ申候

登錄商標
釀造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部一〇番　釀造工場長二七番）
振替東京一九七五五番
東京支店
上野車坂町四三
電話長下谷五七二二番
振替東京六八三二二番

磐城銀行御指定
懇切迅速勉强は
—弊店のモットーであります—
ケーテー洋服店
平町材木町一
高野幸一